

撤布シ表面ヲ稀薄ナラシメテ下層ヨリ結晶セシム

(四) 炭酸苦土ノ製造

是ハ彼「ガリ」ヲ採集セズシテ原料トナスト「ガリ」ヲ取リタル殘液ニテ製スルトメニ方アリ何レニスルモ炭酸ソーダヲ注加シテ炭酸苦土ヲ沈澱セシムルナリ先炭酸ハソーダヲ百度ノ溫度(比重一、二三四三)ニテ溶解シ沈澱器ニ入レ二時間位放置シテ汚物ヲ悉ク沈澱シ之ヲ化合物ニ移シ之ニ常溫ニテ比重一、二八ヲ有スル濾過シタル苦汁ヲ徐々ニ攪拌シツツ混和シ苦汁一石ニ炭酸ソーダ百二十斤ノ割ニテ二倍半ノ水ヲ加ヘ稀薄ナラシメ四十三度乃至三十八度ノ溫度ヲ保タシメ放置スルコト凡ソ一時間之ヲ煮沸鍋ニ移シ攪拌シツツ十度ニ熱シ金網ノ篩ニテフルヒツツ洗濯箱ノ中ニ入ル此洗濯箱ハ凡三寸位ニ砂礫ヲ入レ上ニ木綿ヲ敷ク故ニ其上ニ炭酸苦土カ溜マル様ニナル其濾液ハ次回ニ混和スル水ニ代用ス

(五) 芒硝

是ハ生産費トシテハ多額ヲ要セザルモ價格低キガタメ餘利得ヲウルコト能ハズ即舍利鹽製造ノ殘ヲ用フレバヨシ元ヨリ是ニハ又多少ノ炭酸苦土ヲ含有スルヲ以テ先之ヲ除キテ結晶箱ニ入レ凡一年放置スレバ結晶ヲ拆出ス之ヲ採集シテ附着セル液ヲ滴下シ外氣ノ浸入ヲ防ギ徐々乾燥シテ箱詰トナシテ販賣ス

(六) 藥用鹽化ナトリウム

炭酸苦土ノ濾液ハ比重一、〇七ヲ有シ殆純鹽化ナトリウムヲ^{13%}含有スルヲ以テ之ヲ蒸發シテ結晶セシム結晶ヲ始メシヨリ順次ニ掬ヒ上ゲ水分滴下器ニ入レテ數日間水分ヲ滴下セシムベシ。

胎生する奇異なる植物

川 上 瀧 彌

臺灣に産する二千種の植物中随分珍らしい變つた草木の種類は多いが平地の熱帶植物の中でも我等の眼に面白く思ふものは少くない、中にも今御話しようと思ふ紅樹一名漂木ヒルギといふものなどは素人目に珍らしいばかりでなく學問上からも趣味のある植物であります

紅樹林は基隆の朝日橋の上流に沿ひたる泥地と、淡水それに打狗灣の海岸一帯にあるのは著しいもので、此樹林の風景は熱帶林の特徴の一つであるといつてもよい、基隆にあるものは土木工事の爲めに伐り盡されたので面白い植物の一名區を失つたのは惜しい事である
紅樹の繁茂に必要な條件は海洋の灣入して浪の隱やかな泥土地である様に思はれる、打狗灣一帯の紅樹林は實に美しいもので臺灣の植物系として他に比類のない景色である其樹の梢は一様に切り揃へた様で幹の下方には氣生根が夥しく發生し恰かも此樹の支柱を立てた様になつて人が這入り込むことも出來ぬ位である、それに面白いことには滿潮の時には樹の根は水中に没して水

の中から樹が立つて居る様に見ゆるが退潮時には露出して章魚の足を張つた如く極めて奇異な景色です赤道附近の紅樹林の蔭は鱈魚の好い棲家であるとのことである

紅樹林の植物は種類の數は多いが紅樹科に屬するものは十五屬あるとのことで臺灣に産するものは僅かに三屬三種で之れと混生して同一様の樹林をなして居るものが外に二種あります

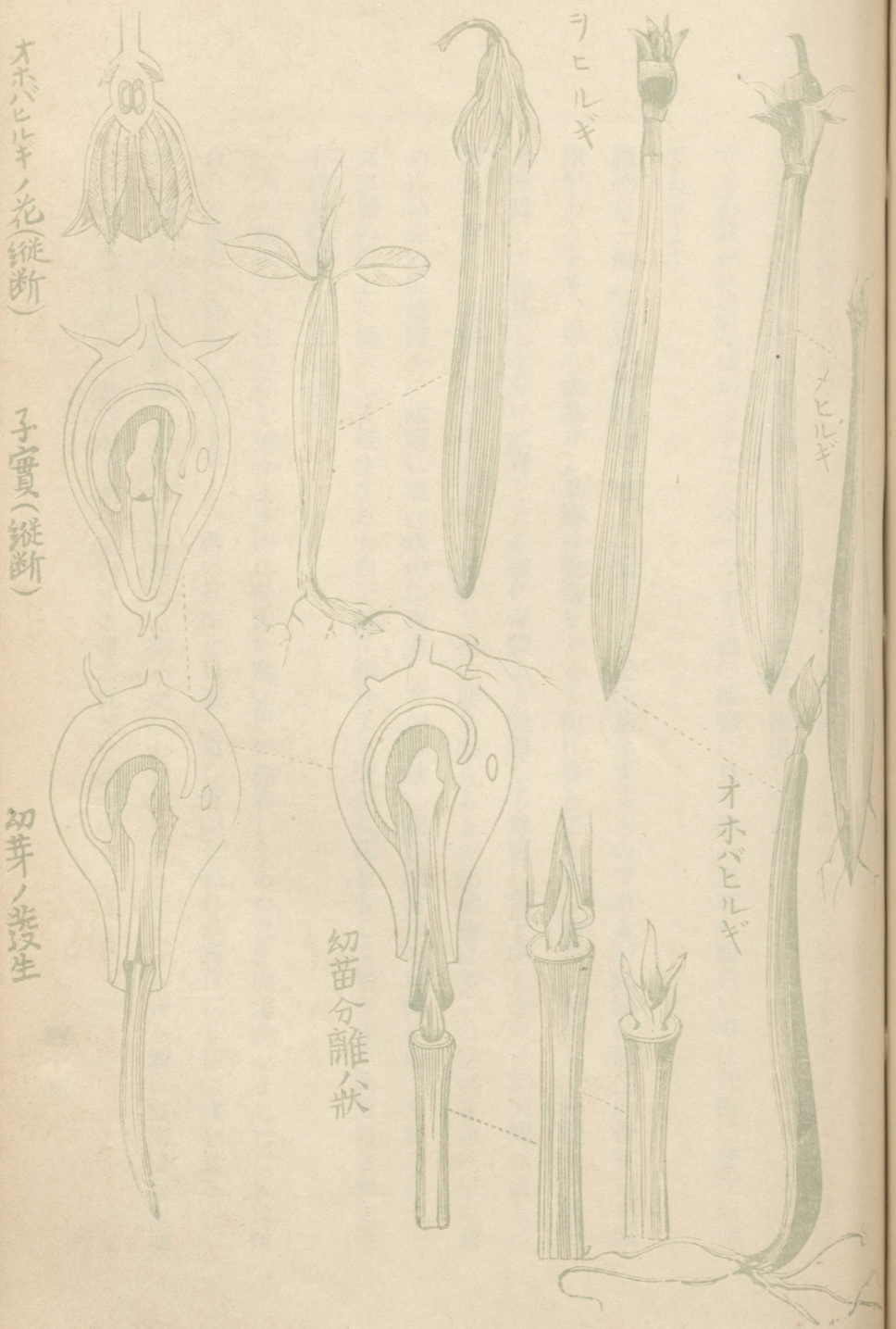
第一種は基隆に多い「メヒルギ」一名「コバノヒルギ」又「リウキウコウガイ」學名を「カンデリア、リデー」と云ひますもので薩摩の喜入は世界に於ける最北の産地にて大島、沖縄、八重山、臺灣、

香港、東印度、印度洋諸島を経て濠洲の北部に達するもので薩摩では方言「タカツク」又「チキジ」

第二種は「アカバナヒルギ」一名「ヲトコヒルギ」又「ヲヒルギ」八重山方言「ビギビニキ」學名「ブルグイユラ、ギムノリザ」と云ひ大隅の大島が最北産地で亞細亞、亞弗利加、濠洲、太平洋諸島の熱帯地方に廣く分布するものであります

第三種は「オホバヒルギ」又「ヤハマヒルギ」學名「リゾワオラ、ムクロナタ」と云ふもので我國では八重山と臺灣に産し東印度馬來、太平洋諸島、亞弗利加、濠洲等に分布するものである

打狗に多いのは「オホバヒルギ」で此樹と「ヲヒルギ」外に馬鞭草科植物の「ヒルギダマシ」と云ふものと混生して紅樹林をなして居る、臺灣では此等の樹木を總稱して茄藤又五趾梨と云つて居る此



オホバヒルギノ花(縦断)

子實(縦断)

幼芽ノ発生

ヲヒルギ

オホバヒルギ

幼苗分離状

等の紅樹諸種は英語で「マングローブ」と稱し熱帯旅行者の普く知つて居る有名のもので染料植物として又名高いもので近頃は八重山からも大阪に輸出して居る。さて形狀が特異なはかりでなく今一つ余り他の植物に見る事の出来ぬ面白い事は此樹の發生狀態であります。

植物は一般に其種子樹枝より地上に落下して後に萌芽するものであるが紅樹は胎生の奇異なる顯象があります、即ち成熟せる果實は脱落せずして樹に着き居る内に幼芽は發生して母體より養分を吸致して伸長し十分に成育したる後に母體より脱離して地面に落下するもので其尖端は直ちに泥土に穿入し其儘に根を生し又波に漂ひて他に運ひ去らるるが此幼苗は多くの空氣を含み居る爲めに幼芽の尖端僅かに水面に現れ水中に直立しながら波に漂ひ適當なる場處に達して根を泥土中又は蟹の穴とに挿入して發生するもので誠に都合よき發生狀態を有して居ります此面白き發生の有様を圖解して見ませう。

一人の旅客が入江の岸を通ります時に此木の實(苗)が漂着してあつたと假定致しましたならば數百日の後再び此地に到りますと一株の紅樹を目撃し更に數年を経れば鬱蒼たる紅樹林を見るべく更に數年の後には此林のために岸邊著しく縮小せられたるを見るであります。實に紅樹は海を填めて陸と爲すもので我等が打狗に旅行する毎に此感起すのであります。